

平成 26 年度第 2 回運営推進会議

平成 26 年 5 月 24 日

記録 坂野

参加者	七飯町役場福祉課福祉係	阿部様
	本町保育園	戸巻様
	なるかわ病院	大野様
	鳴川町内会副会長	高田様
	鳴川グループホーム家族会	大堂様、梅田様、対馬様、伊勢谷様
	スタッフ	中村、坂野

中村 それでは第二回運営推進会議を始めます。運営推進会議とは何の目的で行っているのか、皆さんになかなか分かっていただけていないのが現状です。

グループホームの宣伝なのかな、スタッフの行っている事を聞けばいいのかなと思われているようで、どうも上手く説明できていないようです。厚生労働省が定めている 2 ヶ月に 1 回やらなくてはいけないものです。

色んな所でやっているのは、グループホームでご利用様がどんな生活をしているのかとか、行事の事がやはり多いです。ただうちの場合は、認知症という疾患をお持ちではあるけれど、グループホームは家だという事。在宅生活、皆さんがおうちに居た時、在宅で生活されていた頃とかわらない、近いような生活を送っていただきたいというのが国の考えで、それを私たちが何とか近いような形でやっていけるようにケアに取り組んでおります。ただ、鳴川のように 13 年も経つと現在平均介護が 3,4 とかで、13 年前元気に入所され自分の足で歩いて、ご飯ももりもり食べていたけれどだんだんと体は衰退していきます。でも衰退してはいくけれど、グループホームの中で生活していればいいのではなくて、そこを何とか地域に出て地域の人とお祭りや行事等、自分がやって役に立つ事をできたらなというきっかけ作りをするのが、この運営推進会議なんです。

グループホームの中で例えば、ひな祭りや敬老会をやってますという話を聞きたい訳ではないと思うんです。自分の大切な家族がここで暮らしているけど、本当にこの地域の中で普通に買い物に行ったり、近くにお茶を飲みに行ったり、近所を散歩して地域の方に声を掛けてもらったり、そのような当たり前の生活を家族は望んでいると思うんです。こんな箱の中に閉じ込めて籠の鳥になっていないだろうな、逆に天気がいいのか、雨や雪が降っていないのかすらわからないというような状態で暮らしてるんじゃないよねって、ご家族さんは多分思っていると思います。だから何とか目立とうと思、一生懸命今回鳴川が取り組んだのは、

運動会だったんです。ただ始めたのは冬場だった為、地域の体育館に行って地域の人と一緒に軽い予防体操をしていこうよといった感じでした。うちの職員も今一、新しい発想ができない。こんなに天気が良いのに体育館ではないんじゃないか、天気が良いのだから運動公園に行って地域の子ども達も沢山遊びに来ているだろうし誘って、地域の人達も一緒に予防体操でもできたらいいのではないかと、発想を変えなさいと話したんですが、どうも上手く伝わらないんです。

あんた達の勝手だよねって、2ヶ月に1回運営推進会議をやりなさいって言うているから形だけでやっているんでしょってとらわれたくないんです。

基本的には色んな事を議事録におとし市町村に提出しております。そうしないと罰則なんです。この運営推進会議って名前が良くないのかもしれないんですが、ここに出てもらわなければならないのアイディアが詰まってきた。ただそこでひとつヒントっていったらおかしいですが、グループホームといたらどっちかといえば認知症の人が暮らすところ。認知症という病気、疾患がつかないとグループホームに入れないです。27年度以降は、個人で例えば年金が280万円以上あった場合は2割、要介護1だった人が16800円払っていたがその倍ですから33000円くらい、今までの倍位は払わなくてはならないことになります。法案が通ったので来年の8月からは年金のある方、単独で280万以上なら356800円、その倍ですから7万以上払わなくてはならないんです。厚労省に言ったんです。お金がある人はいいけどお金の無い人はどうしたらいいのかと。そう言う事ではなくお金のある方は払ってもらわなきゃならない、今まで国が負担してきたんがからと言われました。あるおじいちゃんは、200万年金が入ってきます。家賃払います。でも臨時収入が入ってきます。合算所得ですから280万以上ある方は2割負担、以下の方は今まで通りです。9人で暮らしていて鳴川の場合、平均介護度が3,4位になってきてます。要介護4なら30万ですから60万ですよ。方や今までと同じ、方や所得が高いから倍払わなければならない。これサービスどうしますかって事になります。別事業なんです、保育園さんも所得に応じて保育料を頂くわけですよ。0の人から何万円って人もいますよね、でもお子さんが0歳から5歳まで、まんべんなくそのお子さんによって違うわけですよ。でもサービス業ってお金を貰っている人には、特別なサービスをするわけではないですよ。

戸巻様 多分応能負担という事だと思うんです。社会福祉事業というのはそれで成り立っているというのがるので、稼ぎが良い方は10万とかになるんですが、だいたいその中間層が多いと思います。もちろん0という方もいるけど、差をつけることはサービスではしないというのが大原則であるので、目を向けたことはないですね。あと保育料は役場の管理になっており、役場の方で保護者に請求するので我々が保護者がいくら支払っているのかはわからない。そこがみえないので、サービ

スに差はつけられない。でも、グループホームは見えるんですよね。

中村 そうなんです。こちらは功労者の管轄なんです。でも見えないんです。役場が数字を出すので。でも私たちは知らないで請求が出せないで、所得を調べます。4段階というのは180万円以上ですから、そこまでしか今までは分からなかったんですが、これからは調べなくてはならないんです。ご家族さんに申告していただくかなくてはならないんです。

保育園でいう0というのは、私たちでいう生活保護なんです。生活保護の方は0という感覚ですから、七飯町でいうと渡島振興局で、七飯町の人で80250位入ってきます。でも、それは国が貰うんで普通の人だと10万前後ですよ。介護保険含めると、医療費とか諸々含めたい要介護4で14万、要介護5で35000円アップになると17万から18万近くになるんです。誰が入りますか。簡単に言うと事業者が運営できない。今現状、お金を上げる事はできない。でもガソリン代は上がる、消費税は上がるです。うちはこの春暫らくは頑張ろう、利用料を上げずにいくと決めました。日本グループホーム協会で全国調査をやったところ、多少は消費税が上がった分、食事等アップしているところが多いですね。でも来年また消費税が上がります。その時には考えたいと思いますが、食べ物を落す訳にはいかない。ある部分で経費削減をしていかないと事業所が維持できていけない。そんな恐ろしい時代と、皆さんのお預かりしているご家族さんは歩いているけど七飯町内で、要支援1,2の方は介護保険サービスから国は外れます。

特別養護老人ホームに入れる人は要介護3,4,5の人しか入れません。1と2の方は入れません。そして要支援1と2の人は基本的には国のサービスから外れ、市長村に移管をさせましょうということです。

現在、七飯町で要支援から要介護5までの人は1500人いらっしゃいますが、高齢化率は何パーセントですか。

阿部様 24年度の調査なんですけど約28パーセントです。

中村 北海道全体でいくと34パーセントの高齢化率、47都道府県中ワースト3です。24年度で28パーセントなら、現在もう少し上がっていると思います。凄い事になっております。七飯町内で1500人中要支援1,2は何人くらいですかと聞いたところ、300から400人とのことでした。ならば、1100人が要介護、要支援1は100人、要支援2で介護1に近い何らかの支援が必要な人は300人。1500人のうちに大丈夫かなって人が100人、お手伝いが必要な人が300人いるって事です。さてその1500人中認知症という疾患、病名のついた介護保険自給者は何人ですか。

阿部様 約550人です。

中村 国の統計通り3人に1人なんです。ぴったり合ってる。1500人中、この町内で認知症という疾患、病名がついた方が550人いる。

阿部様 入院している人もいれば、他に入所している人も居るだろうし。そればかりでとらえる事はできないんですが。

中村 550人全員が施設に入っているならいいけど。550人全員が町内で生活しているっていうのはありえないけど、少なからずこの町内に550人認知症という疾患、病名のついた人がいるんです。

私たちの説明、努力が足りなかったのかわかりませんが、認知症という疾患をもっている、どうやってこの地域の中で生活して行くのかなっていうのがこの運営推進会議の趣旨なんです。そして、来年度から国が考えているのがグループホームが認知症カフェを作ってください、そして認知症という疾患を持ち悩んでいる家族さんはたくさんいるんだよ、だからそういう人たちが少しでも悩みを相談できる窓口をグループホームがやりなさいと厚生労働省が言っております。利用者さんのケア、それなりのサービスの提供、地域へ向けての勉強会、相談窓口、すべてやらなければ違法になるんです。

認知症という疾患、病名がついた方が100万人、そういう時代、悩んでいる人は沢山居る。全国で行方不明者も沢山いる。そしてなおかつこの運営推進会議の趣旨としたら消防、警察、色々な人に参加してもらい認知症という疾患を持った人たちが地域で安全安心した暮らしてもらう為の会議です。でも現実問題、警察はなかなか参加していただけないんですが最近ではこんな話もあるんです。

新潟で発見されたおじいちゃんを警察が名古屋までお送りしたそうです。

あと4,5年前の話ですが、要介護4の91歳のおじいちゃん、普段はデイサービスを利用しているそうですが、デイから帰ってきて奥さんがちょっと目を話した隙に出ていっちゃいまして、JRの踏み切りに入ってしまい亡くなったんです。それで裁判に奥さん、息子さんの監督不行届けで357万の判決が出たんです。一番責任が有るということで支払いなさいと。ということは私たちも一緒です。居なくなりました、事故にあいました、亡くなりました誰が悪いのかと。

今まで認知症イコール他人事と考えることが多かったと思いますが、私たちのことではない、関係ないではなく、そういった問題を抱えている方が沢山居ます。先日大中山の小規模でも取材を受けましたが、悩んでいる方の色んなお話しがありますのでご覧下さい。

DVD鑑賞

中村 これが現実なんです。私たちの役割は、もし地域にこのように悩んでいる人が居たら悩まず相談相手になってあげられるようなグループホームでありたいです。

認知症専門はグループホームしかないんで、そういう存在のある地域密着型拠点でグループホーム作って、住民の人たちが悩みを気軽に言えるような関係になりたいと思っています。地域包括ケアが始まり色々な人と連携を図り、要支援の人がはずれ市町村のお金が動く。そうすると税金が上がる。27年度の話ですが、七飯町が受け持つ500人に対しどれだけかかるのでしょうか。

大きなところでいくと、栃木がボランティア養成講座を行ったそうです。買い物、通院、料理、話し相手の養成し、いくらかは支払うのだけれど登録制にしてサービスを提供する。住人さん達のボランティアを作っている県が多くなってきているんです。七飯町も考えていかなければいけないと私は思います。

私も65歳になって介護保険を受ける立場になるけれど、何かしらのサービスを使う為に介護認定を受ける為に市町村にお願いをしますが、非該当になるかもしれませんね。何年前に非該当が沢山出たんです。七飯町も出ました。そうなった時に町内会の民生委員だったり、福祉部が大変になると思う。独居世帯が多ってきているけれど、そんな町にはしてはいけないので、誰か若い世代が上にたった組織を作っていくてくれたら私は協力したいと思います。若い人がそういう組織を作り、ある部分で町内会や民生委員が依頼して討議、グループワークを重ね、家族さんも地域密着イコール参加してもらおう。各町内会の考えが各々ばらばらなので、そうなるのと今までばらばらな感じで運営していたけど、みんなでひとつになりこうしましょう、ああしましょうと上に立つ人間が七飯町から出てくれるといいと思いますがどうでしょうか。

戸巻様 そうですね。地域の中で町の方でできる部分と、住民ができる部分の振り分けがあると思います。ボランティアは一緒にやる部分と分ければ接点があると、それはそれでいけると思います。これは必要なことなんですよ。今後高齢化社会になると。我々保育の世界では、昔は地域で子ども達を育てる。例えば雷親父がいて、優しいおばあちゃんがいて、地域で子ども達を見守り育てる。これからは、地域の為の努力、昔地域で子ども達を見守ったような町内になるような努力が必要だと思います。

中村 事業所が優先的にやるのではあまり好ましくない。どちらかといったら住民主体の考え方、今までは私たちが率先してやってきたけど、そうではなくて住民が率先してやっていただくことにより私たちがサポートしたい。でも明日はわが身なので困っている人がいたら助けたいと思っています。

大堂様 函館にはあるんですよ。そういうボランティア。

中村 函館は素晴らしいですよ。そのようなボランティア。中身はまだ分からないけど函館市は福祉施設ボランティアを作りました。

大堂様 消防時代の同期が立ち上げたんです。それが介護のほうにもやるかといえばそうにもならないようで。

中村 函館市が立ち上げたのは福祉施設の職員が足りなくて、基本的に市が立ち上げました。施設ボランティアとは何をするのかというと、話し相手、入浴の着替えの準備、通院の見守りだそうです。何をボランティアに求めているか、ニーズ調査を行ったそうです。ボランティアの養成講座も行ったそうです。七飯町でニーズ調査をやったか聞いたところやっていない、申し訳ないといっていました。ただ住民に対する調査は行ったそうです。何が不便なのか、というようなものですね。なぜ函館市がやったかということ、100床の特別養護老人ホームがオープンしたけど職員が集まらなくて、オープンはしても人手が足りなくて、それ以上進めれないということがあったからです。函館市は過疎地域ではないけれど、助成金が入っているんですよ。七飯町は25年10月から雇用が足りているという判断で入っていないんです。七飯町もアピールしていかないといけない。元気な町を作りたい、そう思います。

梅田様 ボランティア誘われたことはあるけどなかなかできない。接し方がわからない。前に徘徊のテレビをみていて、どこかの町でシールを靴に貼っていたんです。町を歩いていて誰が徘徊しているか正直分からないけど、履物にシール貼っていてそのシール貼っている靴は履いていたら目印になる。そんな事から始めたら何かできるかな、そういうのあってもいいのかなと思いました。

吉田様 先程のDVD、先日テレビでも見たんですが、昔じゃないけど大きな名前を服に縫い付けていたけどその服を脱いで違い服着て出て行ったり、やっぱりプライドがある人は取ってしまうだろうし。名前ぶら下げたりもしていたけど、顔洗うのに外し、て何かやるたびに外して、外に出たら実際下げてなく家にあったなんてことも良くあるみたいだし決めては無いと思います。

高田様 鳴川で独居生活の方は35人おり、2ヶ月に1回必ず回って何かないですかとお話しする活動は行っていますが、役員自体65歳を超えていて明日はわが身というのが現状です。今そういう方はいませんが、一人暮らしで何かあったらどうしようという心配をされている方は沢山居ます。90歳を超えていて一人暮らしされていて、認知症じゃなくて何でも行事参加されていて、草むしりとか、卓球とか、できないながらも参加されていて、でもその人が言うには夜が一番怖いと。もし何かあったらどこに連絡すのかと。役場ではブザーとかをつける話もしていて、あとは会長さんのお宅に電話するとか。でも会長さん自体70歳を超えているので、自分自身の事も心配だというし。何かしてあげたいけどできないのが現状です。でも2ヶ月に1回の見回りは必ずやっています。あとは皆さんの一番の悩みは冬の雪かきの事で、そちらも町内会でボランティアで冬になると行っています。うちの町内会はなかなか頑張っている、そう思います。

対馬様 七飯町に住んで 25 年経つんですが、25 年前は若い人が多かったと思いますが今はお年寄りとお空家がおすごく多くなったと思います。お年寄りに声を掛けていいのかなって思うんです。声を掛けて家から出て来てくれる人や、出てこない人がいて。例えば出てこない人とはどうやって接したらいいのかなと思うんですが。

阿部様 意思だから接することは難しいと思います。

対馬様 個人的なことなんですけど、隣に住んでいる人が私より 10 歳上でお主人が亡くなっているんですけどまったく出てこなくて。私、その人が施設に入ったこと 1 ヶ月知らなかったんです。まったく出てこない人ってなにかあるんですか。

阿部様 うちには包括支援センターがあるんですが、一人暮らしの方でそういう方は直接会っても色々あるから電話したりして接触する。いきなりやっても駄目だから、訪問や電話や色々やっているうちに信頼関係が築ける。

中村 今そこがおすごく問題になっていて、包括支援センターとは、各拠点に置かなければならないというのが国の義務です。昔の支援センターみたいに大中山、本町、大沼とあってその地域に担当窓口があると、前は地域の保健師が訪問して情報があると町内会にも報告してくれて助かったけど、本当はこれが包括の役割なんですよね。

対馬様 うちの母が認知症だから、その人がもしかしたら認知症かなってというのはだいぶ前から思っていたけど、それをどうしたらいいのかが分からなかった。

阿部様 そういう時に包括線センターなんです。

中村 ただこれが知られていないんです。包括支援センターって知っていますか。

大堂様 うちの民生委員に相談しました。

阿部様 民生委員もそういう役割です。

中村 一般の人には知られていない。そういう勉強会を地域の保健師がしてくれるとか包括や社協がやってくれるとか、そういうことを知らないからバラバラなんです。私ならそんな時は行きます。家の周りを歩き回って声を掛けます。誰々が心配してるから、頼まれたからって。私たちは仕事柄できるんですけど。だからそういう時に私たちを使ってほしい、頼ってほしいです。

対馬様 でも、実際出てこない人っていないんですか。

中村 居ますよ。でも、人と関わりたくないって認知症か鬱の初期症状なんですけど、経験ありませんか。

対馬様 母がそうでした。出てこなかったです。散歩に誘っても何をしても駄目でした。

中村 とめどない話になってきましたが、運営推進会議を通してそういう事を、私たちは表に発進していかなければならないという話だったんですけど、そうじゃなくて今度私は、住民の人に協力してもらい、そういうの作っていいよとってくれる住民を探したいと思います。私たちの業種だけでは無理なんで、色々な業種の人が集まって意見を聞き協力してくれる人を集める。そのためにも認知症というも

のをたくさん知ってもらおう。協力してくれるものを作る。そのために鳴川で運動会を始めて、声を掛けて断られて、それでも懲りず中学校や高校へ行って、今回は難しいけど、でも高校のボランティア部とかあって参加してくれそうだったとか、一步一步色んな方に参加してもらい、顔見知りになってもらおうと取り組んでいます。こういうことで困ったらあの人のところに行けばいいんだとか、顔の見える関係を作って色んな相談相手にそういう人がたくさん集まって、お手伝いさせていてくださる方にもいい方向にいけると思うし、逆にまったく顔が見えなくても、うちの近くにこういう人が居るけどと紹介いただいたりと、表面上だけではなくきちっとしたものを作っていかなければと思う。そういうチームを立ち上げる為のメンバー集めに没頭したいと思います。

阿部様 そういうの大事だと思います。

中村 行政や国を当てにせず、自分たちの力で連携を図りやっつけていけるか考える若い人達がたくさんいるならお力をお借りしてもものにできたらと思います。

戸巻様 専門外の部分もありわからないこともあります。確かに認知症の方が増えている、税金が増える。税金納める人が少ないと基本的に働けない人が増える。子どもも増えてもらわないと支える子ども達も限られてしまう。例えば、その中でつながりを持ち町をデザインする。七飯町をデザインするチャンスだと思います。27年度は、子どもの制度も大きく変わります。幼稚園、保育園なくなります。消費税10パーセント当てられる部分でもあるので、おじいちゃん、おばあちゃん合わせて町をデザインする動きがあってもいいと思います。

中村 おじいちゃん、おばあちゃんが住みやすければ、そこの孫やひ孫が自然と集まり暮らすと思うんです。福祉サービス、子どものサービスがあり、そんな元気のある町、子どもが大声を上げて遊べるような環境なら必ず救われると。そのために頑張りたいと思います。

予防体操は夏の間、運動公園で行ってますので、お散歩がてら寄って参加していただきたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは第二回運営推進会議を終わります。本日はありがとうございました。